

東北大学大学院女子学生海外渡航支援事業 第1回報告書

平成 20年 4 月 14 日 記入

報告者名

所属部局名：教育情報学教育部

学 年：博士課程後期 1 年

氏 名：行場絵里奈

印

1. 参加国際学会等の名称

e-CASE 2008 The 2008 International Joint Conference on
e-Commerce, e-Administration, e-Society, and e-Education

2. 開催期間

平成 20年 3 月 27 日 ～ 平成 20年 3 月 29 日 (3 日間)

3. 旅行期間

平成 20年 3 月 26 日 ～ 平成 20年 3 月 31 日(31 日は機内泊、6 日間)

4. 発表演題

「リフレクションシステムが学生の学習成果に及ぼす影響」

5. 参加した国際学会等の状況並びに感想

本学会 e-CASE 2008 は International Business Academics Consortium, Knowledge Association Taiwan, 台湾国立大学, Chien 大学, Chulalongkorn 大学によって主催されていた。本学会には 300 の論文の応募があり、そのうち 190 の論文が採択され、5 大陸の 40 カ国から、総勢 150 人余りの研究者が口頭発表に参加した。発表のテーマ区分は e-Education, e-Administration, e-Society, e-Commerce であり、テーマによって発表する会議室が分かれていた。申請者は e-Education の区分で発表した。発表は、先ず発表者が発表スライドを上映しながら内容を解説し、発表終了後に質疑応答の時間をとる口頭発表形式であり、申請者の発表は 2 日目 3 月 28 日の午後に行われた。発表に対しては、記憶保持についてリフレクションシステムの場合は短期記憶の調査ではないかという質問があり、申請者は「今回は記憶保持を調査したため、記憶の種類については今後の課題である。」と回答した。また、記憶に関する質問に対しては議論が起こり、リフレクションシステムという斬新的な教育方法における学習成果の一部が明確になったとされ、興味深い研究であるという評価を受けた。したがって、申請者のみならず参加者にとってもとても有意義な発表だったと思える。

6. 本事業に対する要望等

今回は、渡航に関して旅費をご支援していただき大変有意義で非常に助かりました。心より感謝しております。今後とも、このような渡航支援を毎年、あるいは年に数度、企画していただけたら、研究職を目指す女子にとって海外発表を積極的に行う好機になると存じます。よろしくおねがいたします。

※この報告書は、本事業の出資団体である「仙台！ソソクラブ」への事業成果報告として、提出します。